

## 大川原LIFE編集部 (大熊町ふるさと未来会議委員)

喜浦 遊さん 佐藤 由香さん 佐藤 和宏さん 南場 優生海さん

### ■現在の活動：身近な情報を、明るく前向きに発信する

私たち編集部は、大熊町大川原地区を紹介する情報紙「大川原LIFE」を制作しています。

「面白ければ、題材は何でもいい」という方針の元、あえて手書きで、町のちょっとした出来事や、季節を感じる町内の様子を紹介しています。

町の広報紙に載るような大きな情報ではなく、「へえー」と思える、日常の生活や、身近な情報を、明るく前向きに発信することを心掛けています。

編集部は、大熊町役場職員の有志「大熊町ふるさと未来会議(※)」の委員4名で、役場業務の一環で活動しています。役場職員としての本業に支障をきたさないよう、無理なく執筆・編集をモットーに活動しています。



編集会議の風景

※大熊町ふるさと未来会議は、町の若手職員の有志が集まり、町の将来について議論したり、事業を実施するために組織されました。



情報紙「大川原LIFE」

A4用紙1枚にまとめて、月1発行中！

バックナンバーは下記をご覧ください。  
<https://www.town.okuma.fukushima.jp/site/fukkou/15062.html>

メルマガでの月1配信も行っています。  
配信希望者は下記へご連絡ください。  
[mirai@town.okuma.fukushima.jp](mailto:mirai@town.okuma.fukushima.jp)

### ■活動のきっかけ：大川原地区の生活のリアルを伝えたい

大熊町大川原地区は平成31年4月に避難指示が解除され、役場と一部の住民、私たち職員が戻ってきました。そこで、避難先にいる町民が、町内の生活を想像できるよう、まず町に戻った私たちが「ここでの情報を、ここから発信する」することが大切と考えました。避難指示解除となった地域の「震災の悲劇でもなく、復興の美談でもない、大川原地区の生活のリアル(=地域の日常)」を伝えたい、と思っています。

また、大熊町の将来のためには「町に関わる人をどう増やすか」という視点が重要との議論もあったため、町内の様子を伝えることは、これまで町に関わりのなかった人が、大熊町に興味を持つきっかけになるのではないかと考えています。

# 復興のパイオニア

## ■活動を通して思うこと：発信することで、つながりを広げていきたい



佐藤(和宏)さん

町に対する考え方は人それぞれ。クレームも覚悟していましたが、読者に温かく受入れてもらえて嬉しいです。メディアや広報誌では届けられない、「生活する人目線」の情報を発信したいです。

未だに、人が歩いているだけで驚かれたり「人が住んでいるの？」と聞かれることがあります。震災から時間が経って、町の日常と、外から見る印象のずれがあります。今後も「本当の大川原を知ってもらおう」という姿勢を大事にしたいです。



喜満さん

執筆活動がいつの間にか一年経過し「こんなにも伝えたい情報があったんだ」と自分自身驚いています。これからも町民と交流し、地元ならではの情報を拾い上げていきたいです。



南場さん

「大川原LIFEを読んだ」と、保育園の時の先生から電話を頂きました！そんな小さな出会いも含め、「つながり」を大切にしていきたいと思います。



佐藤(由香)さん

## ■今後の活動：「ゆるく、長く、無理なく」続けていく

今後も「大川原LIFE」を続けてきたいと考えています。新しいお店・住む人や関わる人・季節の移り変わりなど、町内は少しずつ変化しています。「ゆるく、長く、無理なく」続けることが、町の「リアル」や、町の変化を知ってもらうきっかけになると思います。自分たちなりの視点と言葉で、伝えることを楽しみたいと思います。

最近では、県外の方々からも読みたいと連絡があり、メールでの配信も行っています。更に、県外への配信も増やしていきたいですし、今後の可能性として、町民の方々と一緒に制作・発行が出来る様になれば良いという思いもあります。

この先、大川原地区も、商業施設が再開するなど賑わいのある日常を取り戻し、だんだん「普通の町」へと変化して行きます。様々な可能性はありますが、町民の方々とふれあいながら、情報を発信し続けていきたいです。